

● 病床確保計画＜改定＞見直しのポイント

（１）現在、病院において確保している病床の運用にかかる基準の設定

- フェーズ毎の確保病床数
各病院のフェーズ毎の確保病床数の総数を基本に見直し
- フェーズ切替の移行基準
第四波の感染拡大状況を踏まえ、判断基準を見直し

（２）今後の感染急増時（災害級非常事態）に備え目標とする確保病床数の設定

第四波と同程度（最大療養者数約22,000人）か、それ以上に感染者が急増した場合（災害級非常事態）に備え、更なる病床確保に取り組む。

＜目標病床数＞

3,500床（重症病床 500床、軽症中等症病床 3,000床）

＜重症病床＞ 病床確保計画（改定内容）

- フェーズ移行の準備期間を概ね1週間とし、移行基準を設定。第四波での実績から、感染拡大期に1日平均9人程度の入院患者数増の発生を見込み、確保病床数のおよそ60～70%以上で次フェーズ移行。
- 大阪コロナ重症センターについては、当面の間、感染収束期は5床から10床の運用とし、感染拡大に応じて最大30床まで運用。（フェーズ3、4の設定病床数には「大阪コロナ重症センター」30床含む）
- 第四波において、確保数（224床）を大幅に超える重症患者に対応するため、一般医療を制限の上（不急の予定入院・手術の延期、救急患者受入体制の重点化等）、最大確保365床を確保。そのため、365床と同程度の病床数を設定した**フェーズ4は、一般医療への影響が大きいことが想定され、非常事態フェーズとして位置づけ。**

運用 フェーズ	病床数	フェーズ移行の判断基準となる入院患者数 (ただし、 今後の感染予測・病床運用率を踏まえ総合的に判断)	
		感染拡大時	感染収束時
フェーズ1	90床	およそ54人（病床数の60%）以上 ⇒フェーズ2移行準備	－
フェーズ2	160床	およそ112人（病床数の70%）以上 ⇒フェーズ3移行準備	およそ54人未満 ⇒フェーズ1移行準備
フェーズ3	250床	およそ175人（病床数の70%）以上 ⇒フェーズ4移行準備	およそ112人未満 ⇒フェーズ2移行準備
非常事態 (フェーズ4)	350床	－	およそ175人未満 ⇒フェーズ3移行準備
災害級 非常事態	500床 (目標)	－	－

※赤字：6/9見直し箇所

＜軽症中等症病床＞ 病床確保計画（改定内容）

○フェーズ移行の準備期間（概ね2週間）も踏まえ移行基準を設定。

※赤字：6/9見直し箇所

第四波での実績から、感染拡大期に1日平均24人程度の入院患者数増の発生を見込み、確保病床数のおよそ60～70%以上で次フェーズ移行。

運用 フェーズ	病床数	フェーズ移行の判断基準となる入院患者数 (ただし、 <u>今後の感染予測・病床運用率を踏まえ総合的に判断</u>)	
		感染拡大時	感染収束時
フェーズ1	<u>1,000床</u>	<u>およそ600人（病床数の60%）以上</u> ⇒フェーズ2 移行準備	－
フェーズ2	<u>1,700床</u>	<u>およそ1,190人（病床数の70%）以上</u> ⇒フェーズ3 移行準備	<u>およそ600人未満</u> ⇒フェーズ1 移行準備
フェーズ3	<u>2,000床</u>	<u>およそ1,400人（病床数の70%）以上</u> ⇒フェーズ4移行準備	<u>およそ1,190人未満</u> ⇒フェーズ2 移行準備
フェーズ4	<u>2,350床</u>	－	<u>およそ1,400人未満</u> ⇒フェーズ3 移行準備
災害級 非常事態	<u>3,000床</u> (目標)	－	－

宿泊療養施設確保計画（改定内容）

○第四波での確保実績を踏まえ、部屋数等を設定。（療養者受入のためのホテルの準備期間は2週間程度）

※赤字：6/9見直し箇所

○宿泊施設については、その確保及び稼働に一定期間要することなど運用上様々な制約があるため、フェーズの移行については、療養者数の増加に対して早い段階での移行が必要。

運用 フェーズ	部屋数	次フェーズ移行の判断基準 (下記基準と感染拡大状況から総合的に判断)	
		感染拡大時	感染収束時
フェーズ1	<u>800室</u>	<u>およそ240人以上</u> ⇒フェーズ2 移行準備	－
フェーズ2	<u>1,600室</u>	<u>およそ800人以上</u> ⇒フェーズ3 移行準備	<u>およそ240人未満</u> ⇒フェーズ1 移行準備
フェーズ3	<u>2,400室</u>	<u>およそ1,200以上</u> ⇒フェーズ4 移行準備	<u>およそ800人未満</u> ⇒フェーズ2 移行準備
フェーズ4	<u>4,000室</u>	－	<u>およそ1,200人未満</u> ⇒フェーズ3 移行準備